

【特集1】

都会なのにみどりの多いまち松戸には
“みどりの守り人”がいる。

Green!
Green!
Matsudo

【特集2】

創造と想像が、新しい魅力ある街をつくる。

THE
ART
city
MATSUDO



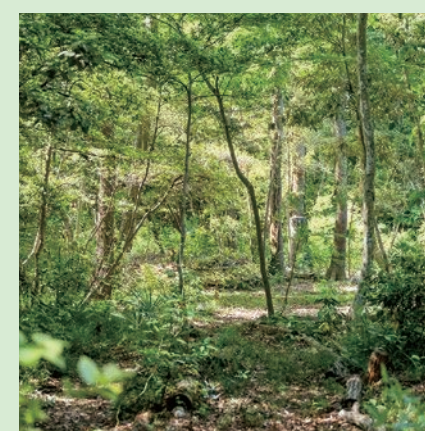
Green! Green! Matsudo

都会なのにみどりの多いまち松戸には
“みどりの守り人”がいる。

「みどりと暮らす。松戸に暮らす。豊かに暮らす。」

松戸市は「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」を目指しています。松戸には、公園・街路樹・里やま・河川・農地など、先人から受け継ぎ守り育ててきた貴重なみどりがたくさんあります。そのみどりが暮らしを支え、生活に潤いを与えています。そして、貴重なみどりを支える“みどりの守り人”がいます。みどりがある生活を楽しめるまち。生活にみどりが寄り添うまち。松戸の“みどりの守り人”をご紹介します。

2025年には第36回全国「みどりの愛護」のつどいが松戸市で開催されます。



東松戸ゆいの花公園
利用促進協議会会長

湯浅 隆雄

YUASA Takao

結いの会代表

石川 美記子

ISHIKAWA Mikiko

PROFILE

湯浅隆雄

第35回全国「みどりの愛護」のつどいにおいて功労者国土交通大臣表彰を受賞した「東松戸ゆいの花公園利用促進協議会」会長。平成30年、協議会が組織され初代会長に就任して以来、今日に至るまで公園の利活用を発展・充実させるために尽力。

石川美記子

広報でボランティア募集を見たことをきっかけに「結いの会」の活動に参加。花を愛する仲間とともに、公園を訪れる人々の笑顔に触れる喜びを感じながら、四季折々の花々で公園を彩っている。

東松戸ゆいの花公園では、東松戸ゆいの花公園利用促進協議会構成員の「結いの会」の皆さんが、花壇の一部分を維持管理しています。また、別の構成員「マグノリア・コンサート実行委員会」は、ゆいの花公園のみどりと花に囲まれた環境の中で、クラシックコンサートを年に3〜4回開催しています。他にも春の「結いの花フェスタ」や冬の「クリスマス会」を松戸市と共催するなど、多種多様なイベントを実施しています。四季折々の花を通じて、人と人々が結ばれ人の輪が広がっていく豊かな環境は、ボランティアの方々の協力の上に成り立っています。協議会としても「継続は力なり」の想いで、構成員の方々のご意見を伺いながらこの素晴らしい

公園をより豊かなものにしていきたいと考えています（湯浅）。
私たち「結いの会」は公園内の花壇のデザインを考える他、花の植え替えや花がら摘み、水やりなどの維持管理を行っています。そこで育てた花を押し花にしてしおりを作ったり、ラベンダーの香り袋を作っています。来園者にも体験してもらえるように、春・冬のイベントの際には講座も開催しています。花壇の手入れをしていると、お散歩に来た保育園の子どもたちや、お昼ご飯を食べに来たご年配の方たちに「ありがとう」と声をかけていただくことも多いです。皆が優しい気持ちでつながっていく、そんな素敵な雰囲気がこの公園にはあると感じています（石川）。

花によって結ばれ、花を通じて広がる人の輪



特定非営利活動法人
クリエイティブまつど工房理事長

榎本 孝芳

ENOMOTO Takayoshi

PROFILE

江戸川松戸フラワーライン実行委員会相談役。30代の頃、青年会議所でまちづくりに取り組む中でみどりへの関心を深め、みどりを育むボランティア活動を開始。建設業の現場監督等の職務で培った、人と協力して現場を動かすプロデュース能力を発揮しながら、30年以上にわたり松戸市の多様な取り組みに尽力している。

皆が誇りを持てるまちづくりを目指して

「江戸川松戸フラワーライン」は、松戸の魅力を引き出して、住む人が自分のまちに愛着を持てるようにとの思いから始まりました。現在花畑がある場所の地下には、古ヶ崎浄化施設があります。ここが花畑になる前は施設建設のため石ころだらけで、マンホールや杭が地表に出ていて、グラウンドとしての使用が困難な状態でした。そこで「緑花清流のまちづくり」構想のもと、市民と行政が協働でこの場所を花畑にする取り組みが、平成7年に始まりました。しかし、ここまでにするのは簡単ではなく、江戸川が増水してコスモスが根腐れしてしまったり、レンゲが害虫にやられてしまうなど、何度も被害に見舞われました。水道水源となる

江戸川の河川敷に殺虫剤等は使用できないので、その分苦労は多かったです。それでも試行錯誤を重ねた結果、今では江戸川の河川敷に広がる約2ヘクタールの花畑に、春にはポピー、秋にはコスモスが一面に咲き誇り、お祭りも定期的に開催されるなど、市民が憩う花の名所になりました。
現在も多くのボランティアの方々が、協働してこの花畑の運営・管理を行っています。この活動を長く継続していくために、興味を持った人が気軽にボランティアに参加できる仕組みづくりも進めていこうと考えています。そして誰もが「私はこのまちが好きです!」と誇りを持って言える環境を、これからも守り育んでいきたいと思っています。





さあ、きみもあそびに来てみて！

オープンフォレスト

OPEN FOREST

都市部に残るみどりを守り、みどりを大切にする心を育むきっかけとなることを目指し、新緑のきれいな5月に、普段は入れない森を一斉公開しています。公開する森は、ボランティアが日頃から保全活動をしている森、計18カ所。森を散策したり、ハンモックに揺られて読書をしたり、山野草を観察したり、手作りの遊具で遊んだり、木の実で工作をしたりと、楽しみ方はいろいろ。こんなに近くに森があるなんて！発見とやすらぎが満載の、ワクワクするイベントです。



森の中で工作したよ！
上手にできたでしょ？



ハンモックでゴロゴロ
とっても気持ちいい！



ネットを使って
木登り大成功！



ママ見て！輪投げ
成功したよ！



カブト虫の幼虫を
見つけたよ！

注意

- 森には駐車場、トイレがありません。
- 服装は、長そで・長スボン・運動靴で。

連絡先
8:30～
17:00

松戸市 みどりと花の課
☎ 047-366-7378 (平日のみ)

松戸市公式
ホームページ

オープン
フォレストの
イメージ動画を
見よう！

松戸里やま応援団代表

横山 元

YOKOYAMA Hajimu

PROFILE

松戸里やま応援団代表。オープンフォレストin松戸実行委員長。松戸里やま応援団代表として、市内で里やま保全活動を行う各会との協力支援体制の強化を図りながら、松戸市のみどりを守るとともに、森でのイベントの開催などに尽力。みどりを愛する者として、人と人とのつながりを大切にしながら、仲間とともにみどりに対する理解を広めていく活動を続けている。

都会と共存する松戸の森の魅力を発信

常磐線で東京方面から松戸に入ると矢切の斜面林が目に入るので、松戸にはみどりが多いという印象を持たれる方が多いですが、都心に近いこともあり、みどりが広がる場所は限られています。今でも少しずつ森は減り続けています。樹林地の所有者のご理解とご協力のもと、その貴重な松戸の森を守る整備活動を私たち「松戸里やま応援団」が行っています。里やま応援団は、平成15年度に市長の諮問機関である「松戸市緑推進委員会」の発案で始まった「里やまボランティア入門講座」の修了生が立ち上げた団体で、今では市内15の森をそれぞれ別の会が受け持ち、次の世代に少しでも良い自然環境を引き継ぎたいという想いで活動しています。

松戸の森は都会的な環境と共存していることが特徴で、一歩森に入ればまちの雰囲気とは一変、きれいな空気に包まれて、心が癒されていくのを感じられるはずです。野鳥や昆虫に出会えるのも楽しみのひとつです。「オープンフォレストin松戸」などのイベントを通して、小さな子どもたちにも豊かな自然に思い切り触れ合ってもらいたいと思っています。森で活動をしていると、散策中の方々と会話する機会もよくあります。そんな人と人との触れ合いが生まれるのも、森を訪れる楽しみのひとつかもしれません。日常生活のすぐ隣に安らぎの場所がある素晴らしい森を、これからもさまざまな活動やイベントを通して、多くの方に伝えていきたいと思っています。



THE ART *city* MATSUDO



創造と想像が、新しい魅力ある街をつくる。

松戸市では「文化の香りのする街」を目指して、多様な文化・芸術に触れる機会の創出やクリエイターやアーティストが活躍できる環境づくりなど、文化を軸とした都市ブランドづくりを行っています。

国指定重要文化財である戸定邸をメイン会場として行われる伝統と革新が融合した国際フェスティバル「科学と芸術の丘」、国際的な文化芸術の発信拠点として国内外のアーティストの滞在創作活動を支援しながら世界の文化芸術と市民の触れ合いを実現する「PARADISE AIR」など、松戸はアートの魅力で溢れています。



みどりの団体 Introduction

松戸市では、市内の里やま・公共花壇・河川などのみどりを守り育てるため、多くの市民活動団体がさまざまな取り組みを実施しています。松戸の“みどりの守り人”として活躍する、みどりのボランティア団体とその活動についてご紹介します。

2024年度
「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰



松戸ハーブボランティア

ハーブを広め、ファンを増やすきっかけとなることを目指して、平成17年に市営金ケ作育苗圃内ハーブ園(約1,000平方メートル)の維持管理団体として発足しました。

2018年度
「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰



緑のネットワーク・まつど

松戸のみどりを訪ねる「松戸のみどり再発見ツアー」を主催するとともに、さまざまな活動を通して、みどりに関するネットワークづくりに深く貢献しています。

2016年度
「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰



根木内歴史公園サポーター 根っ子の会

「歴史とみどりと水の調和」をテーマに協働活動を継続することにより、公園を“身近な自然と触れ合える場”、“豊かな自然を楽しめる場”として活用することを目指しています。

2016年度
「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰



オープンフォレスト in松戸実行委員会

「オープンフォレストin松戸」は、毎年5月に開催しています。身近なみどりの大切さ、減少し続ける都市樹林を保全することの大切さを、参加者と一緒に考える大変有意義な機会となっています。

2015年度
「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰



松戸花壇づくり ネットワーク

市内で花壇づくりをしている市民団体の相互交流を目的に、平成17年に設立されました。市の育苗施設を拠点に“種からの花づくり”に取り組み、「花づくり体験講座」を開催しています。

2003年度
「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰



江戸川松戸フラワーライン 実行委員会

平成7年度に松戸市の「緑花清流のまちづくり」構想をきっかけに発足。市民と行政による「協働のまちづくり」として、約2ヘクタールの花畑に春はポピー、秋はコスモスを育てています。

2023年度 かわまち大賞



坂川とまちづくり市民の会

市民からの寄付による里親制度で、坂川沿いに河津桜37本の並木を整備し、「松戸宿坂川献灯まつり実行委員会」の設立・運営や河川清掃などを行っています。

2017 グッドデザイン賞



エディブルウェイ プロジェクト

松戸駅から千葉大学園芸学部までの地域で、食べられる景観づくりを行っています。野菜やハーブなどの食べられる植物を、まちなかのプランターで地域の方と一緒に育てています。

CROSS TALK



伝統と革新の空間で科学と自然とアートをつなぐ。

「科学と芸術の丘」を立ち上げた清水陽子氏とディレクターを務める関口智子氏が、アート、そして松戸への想いを語る。

清水「ニューヨークなどで多彩なクリエイティブプロジェクトに関わる中で、アーティストたちが自分たちの力で魅力ある街をつくっていく過程を見て、すごくクールだなと感じていました。それで私も、自然と調和した場所で最先端の科学と融合した芸術表現をやりたいと考えていたところ、松戸にはクリエイティブな人たちが結構いることを知りました。」

関口「『先進的な試みを実験的にしながらクリエイティブな発想を活かし、なおかつ自然と調和した、持続可能なコンセプトのフェスティバルをやったら面白い人が集まるのではないか』という清水さんの考えに共感し、ディレクターとして科学と芸術の丘に参加しました。」

清水「私が科学と芸術の丘で大事にしているのは、難しいことを考えなくても、この現象が美しいと感じたり、何かインスピレーションになったり、あるいは疑問を持ってもらうようなきっかけをつくることです。」

関口「私は、『丘のマルシェ』の当初の企画意図のように、『たまたま来たらアートに出会う』という仕組みを大切にしています。また同時に、街の方でもテーマに合わせた企画を実施してもらうなど、皆でこの芸術祭をつくっていくことを大切にしています。」

SHIMIZU Yoko

清水 陽子

PROFILE

アルスエレクトロニカ・フューチャラボのクリエイティブ・ビジネス・イノベーション統括。生物学と化学のバックグラウンドを持つ主要研究者でありアーティストでもある。科学と芸術を融合した革新的な技術やインスタレーションを開発。クリエイティブな街づくりや都市開発のプロジェクトにもディレクターやアドバイザーとして参画している。

SEKIGUCHI Tomoko

関口 智子

PROFILE

「科学と芸術の丘」総合ディレクター。一般社団法人ゼロファクトリアル代表理事。前職でサイトやWebコンテンツ等のディレクターとしてプロジェクトマネジメントの経験を積んだ後、“表現をする人”を応援したいというモチベーションから独立。科学と芸術の丘のイベント運営に携わるomusubi不動産にプロジェクトマネージャーとして参画している。



THE
ART
city
MATSUDO

FEATURE #01

科学と芸術の丘

Matsudo International Science Art Festival

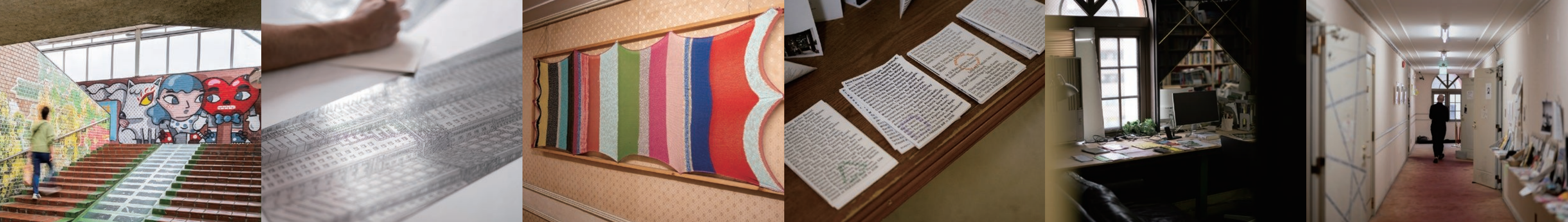


◀公式ホームページ

かつて宿場町として栄えた松戸には、古くから新しいことを取り入れていく自由な雰囲気があり、市外から訪れる人を受け入れる寛容さもあります。それは、グローバルな感性を持ち幕末の激動の時代を生き抜いた水戸藩最後の藩主・徳川昭武が築いた文化でもあります。そんな歴史的背景を持つ松戸市で、2018年に国際フェスティバル「科学と芸術の丘」が初めて開催されました。科学と芸術の丘は、クリエイティブな活動を実践するメンバーや世代を超えた市民が主体となり、創造性豊かな「クリエイティブ・シティまつど」を目指す松戸市とともに立ち上げたフェスティバルで、徳川昭武が建てた戸定邸をメイン会場として、毎年開催しています。オーストリア・リンツに拠点を置く世界的なメディアアートの文化機関「アルスエレクトロニカ」の協力も得て、共にキュレーションした国内外のアーティストによる作品展示等がされています。他にも毎年違うテーマのもと、トーク・ワークショップ・マルシェなど多彩なプログラムが展開される他、同時に松戸市内のお店やギャラリー等でもイベントを開催しています。

REPORT
科学・芸術・自然、そして人がつながり創造的な未来を目指す新たな文化





INTERVIEW



ARTIST
|
ヴァスコ・ムラオ
MOURÃO Vasco

私はパラダイスエアのロングステイ・プログラムで2015年に初めて松戸にきました。今回は4回目の滞在になりますが、私にとって松戸は第2のホームで、ここに滞在してクリエイティブな作業をする時間がとても好きです。いつも居心地の良い領域から一歩出ると、世界の見え方も違うし、いろんな刺激が与えられていると感じます。松戸での体験や出会いによって高められる好奇心が、クリエイティブなところに還元されていると思います。私が松戸に滞在して体験したことや感じたことを他のアーティストにも表現してもらい、たくさんの方がつながる関係性をつくっていきたくと考え、新しいレジデンスをつくるプロジェクトを進めています。そして将来的には、私が松戸で活動しているアーティストやクリエイターの方をポルトガルに連れて行きたいとも思っています。アートに関わっているとその中に共通言語があるので、話す言語が違ってても、豊かな時間の中でつながりが生まれていくと感じています。

PROFILE

1979年生まれ、ポルトガル出身。ドローイングを専門とする美術家。黒いペンと紙、そして時間だけを用いて、都市の街並や建築物を描く。小さなサイズの作品から巨大な壁画まで、美術とイラストレーションの間を自由に行き来しながら作品を展開。著名な新聞・雑誌に作品を提供する他、個人のクライアントのための作品制作などにも取り組んでいる。



DIRECTOR
|
森 純平
MORI Junpei

松戸は宿場町として繁栄した歴史があるためか、住民の自治意識が高く、寛容性や頼れる関係性があります。東京との距離感や、パラダイスエアがあるビルには階段しかないといった弱点もアーティスト・イン・レジデンスにはハマると思って、約10年前に本プロジェクトをスタートしました。現在パラダイスエアでは年間60名ほどのアーティストが滞在し、その人たちとの交流を求めて地元のクリエイターも入居しています。世界中のアーティストが、各国を移動する途中で訪れ滞在中に作品をつくるなど、ここはアーティストたちのトランジットポイントになっています。最近では環境問題やジェンダーにまつわる作品が増えるなど、時代の流れとともに来るアーティストも変わりました。だから、「ドアは開き続ける」というのが大事だなと感じています。作品ができるまでのプロセスとか、始まる瞬間とか、晴れの場ではなく「日常の大切さ」みたいなことが社会的に広がっていけばいいと思っています。

PROFILE

1985年マレーシア生まれ。東京藝術大学建築科大学院修了。在学時より建築から時間を考え続け、舞台美術・展示・街づくり等、状況を生み出す現場に身を置き続ける。2013年より千葉県松戸市を拠点にアーティスト・イン・レジデンス「PARADISE AIR」を設立・運営し、今まで400組以上のアーティストが滞在している。

FEATURE #02

パラダイスエア

PARADISE AIR



◀公式ホームページ

現在、短期滞在のアーティストを受け入れる「ショートステイ・プログラム」、公募によって選出されたアーティストの渡航・滞在・作品制作を3カ月間フルサポートする「ロングステイ・プログラム」、アーティストと地域をつなぎ多様な学びと交流を促す「ラーン・プログラム」の3つを軸として活動しています。

無償で宿泊場所を提供する「一宿とアーティストがもたらす「一芸」で、かつての松戸宿の歴史伝統を踏まえた「一宿一芸」をコンセプトに、国内外のアーティストたちが行き交う文化・芸術のトランジットポイントとして、新たな歴史を積み重ねています。

現在は、短期滞在のアーティストを受け入れる「ショートステイ・プログラム」、公募によって選出されたアーティストの渡航・滞在・作品制作を3カ月間フルサポートする「ロングステイ・プログラム」、アーティストと地域をつなぎ多様な学びと交流を促す「ラーン・プログラム」の3つを軸として活動しています。

「パラダイスエア」は、かつてホテルだったビルを活用して運営されています。楽園を意味する「PARADISE」、アーティスト・イン・レジデンス(Artist in Residence)の略称「AIR」から「PARADISE AIR」を名称付け、2013年にその活動を開始しました。

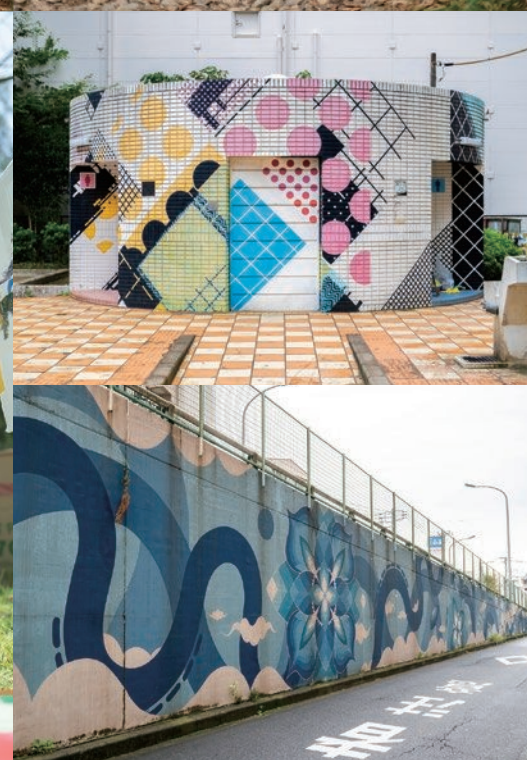
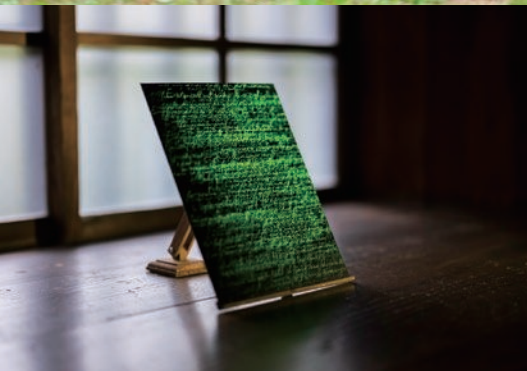
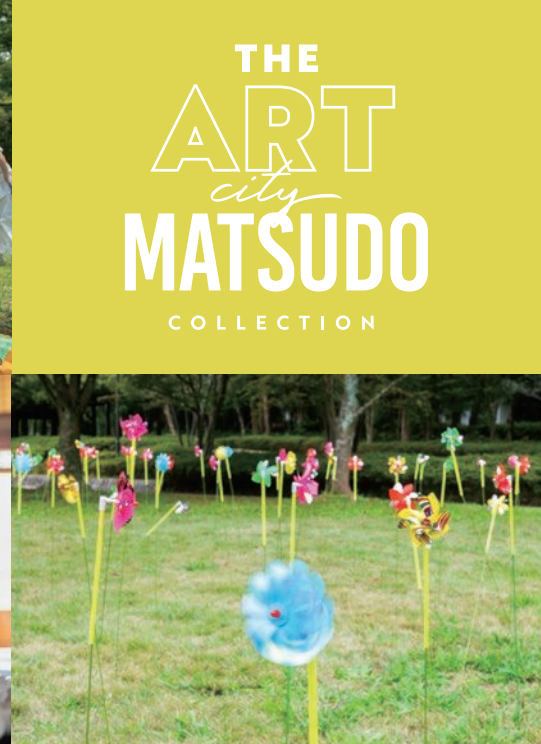
江戸時代、水戸街道の宿場町として栄えた松戸駅前、江戸と水戸をつなぐ要所として多くの旅人が行き交いました。地元住民の邸宅には、過去に訪れた旅人が宿泊料代わりに残した作品が今も残ると言われます。

THE ART city MATSUDO

REPORT

国内外のアーティストたちが行き交う文化・芸術のトランジットポイント

THE
ART
city
MATSUDO
COLLECTION



ART AND GREEN EVENT SCHEDULE

3 MARCH



さくらまつり(各所)

“桜のトンネル”を体感できる「常盤平さくらまつり」、「青空と桜のコントラスト」が見事な「六実桜まつり」、「夜桜」が楽しめる「八柱さくらまつり」など各所で開催。

4 APRIL



緑と花のフェスティバル

自然に親しみ、みどりの恩恵に感謝し、豊かな心を育むことを目的に、市民・緑化関係団体・行政が一体となつてみどりの月間に開催するみどりの祭典。

5 MAY



オープンフォレストin松戸

里やまボランティアによる保全活動が行われている森を公開するイベント。森の魅力を感じ、身近なみどりの大切さに気付くきっかけとなることを願って開催。

5 MAY



江戸川松戸フラワーライン 春の花まつり

フラワーボランティアや地域の皆さんと育てたポピー畑で花まつりを開催。ステージ演出や河川愛護団体による模擬店など、子どもから大人まで楽しめるイベント。

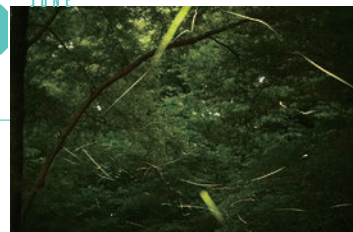
5 MAY



結いの花フェスタ

毎年、東松戸ゆいの花公園の開園記念日の5月19日に合わせてその前後に開催。色とりどりの花やみどりに囲まれながら、子どもから大人まで楽しめるイベント。

6 JUNE



ホタル観賞会

21世紀の森と広場内の湧水にホタルの自然発生を夢見て、ライオンズクラブが1992年にホタルの飼育を開始し、翌年から観賞会を開催(現在は100匹程が自然発生)。

7 JULY



アートパーク

聖徳大学が主催し、松戸市内の団体・松戸市など、大学・地域・行政が連携して、松戸中央公園を舞台に開催するアートプロジェクト。

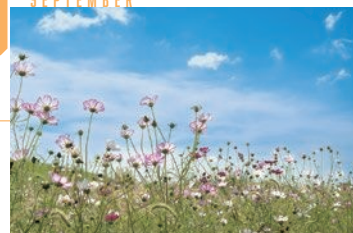
8 AUGUST



松戸宿坂川献灯まつり

夏の夕べに「とうろう」や提灯の灯りで川面を飾り、町を水害から守ろうと川を拓いた先人たちと自然の恩恵に感謝を伝える催し(毎年8月9日・10日に開催)。

9 SEPTEMBER



江戸川松戸フラワーライン 秋の花まつり

7月に種をまいたコスモスの開花に合わせて花まつりを開催。秋の太陽をいっぱい浴びたコスモス畑は、さわやかな風を感じられる貴重なスポット。

10 OCTOBER



科学と芸術の丘

メイン会場となる戸定邸・戸定が丘歴史公園・松雲亭に加え、松戸市内各所にエキシビジョン・トーク・ワークショップ・マルシェを開催。

11 NOVEMBER



松戸アートピクニック

「21世紀の森と広場」が有する豊かな自然環境を舞台に、アート作品を楽しみ、新しい自然を発見し、世代や言語を超えた交流が生まれるきっかけとなるイベント。



ストリートカルチャー体験イベント「XP」

若者に人気のBMXやスケボー・グラフィティアートなど、プロアスリートやアーティストによるワークショップやライブパフォーマンスを体験できるイベント(開催時期不定期)。

OTHER (不定期開催)

■アートアンブレラ(JR東日本の忘れ物傘にペイントするワークショップ)

■PARADISE AIR(アーティストと地域との交流を促す活動)

CONNECT with MATSUDO



松戸市公式



友だち募集中!
松戸市
公式LINE



まつどやさしい
暮らしラボ



松戸市
ふるさと納税
ふるさとチョイス

